

研究タイトル：「夢前花街道事業」と「加点式健診事業」の連携による地域活性化実践研究
代表研究者：藤岡 秀英(神戸大学経済学研究科 教授)

I. 研究の概要

「夢前花街道事業」は、地域住民と大学生がさまざまな舞台で交流を深め、地域活性化をめざす取り組みである。具体的には「盆踊り再開事業」「(香寺ハーブガーデン主催)カモミール収穫ボランティア」「雪彦山での登山」「古民家改修・活用事業」を通じて、大学関係者と地域住民との交流、親睦を深め、そこでの体験を「加点式健診事業」(よいとこ健診)につなげてきた。

同時に、株式会社「香寺ハーブガーデン」の福岡譲一会長からの相談依頼を受け、姫路市夢前町で「健康づくり」をテーマとする取り組みが求められた。「加点式健診」は、神戸大学医学研究科・地域医療教育部門の岡山雅信教授、八幡晋輔助教によって新たに考案された。「加点式健診」(よいとこ健診)を展開することで「健康づくりのモチベーションアップ」と「コミュニティ活動」を結びつけ、フレイル予防から健康診断受信率の向上を目指してきた。一連の取り組みを通じて、中長期的には、夢前町での一人当たり医療費の抑制につながることが期待される。

また、この研究事業は、2018年10月1日から2020年9月末までの計画であったが、2020年3月以降、コロナ禍により現地での実践研究が不可能となった。そのためニッセイ財団の計らいにより研究期間は2021年3月まで延長された。なお、新型肺炎が世界的なパンデミックを引き起こす中、現在まで「加点式健診事業」(よいとこ健診)は継続している。健診票のオンライン入出力を可能にしたプログラムの開発とZoomを使った遠隔フィードバックという技術的な改善により、2020年9月から「オンラインよいとこ健診」が実現した。そして、「よいとこ健診」は、学生グループが中心となり、その企画・運営に携わっている。彼らが感染予防対策を含めて、緻密な計画を立てながら準備を進め、現地では、姫路市中央保健センター・安富分室、夢前地域包括支援センターの協力によって可能となっている。なお、2022年3月にも「春のよいとこ健診」を計画準備中である。

II. 実践研究の枠組み

(1) 「夢前花街道事業」

地域住民と大学生が交流を深める取り組みとして、藤岡が顧問として指導してきた学生サークル「学生流むらづくりプロジェクト『木の家』」による、①「盆踊り再開事業」②「古民家改修・活用事業」があり、(株)香寺ハーブ・ガーデンとの連携事業として、③2019年5月、カモミール収穫ツアー、2019年10月、夢前スマートICの花壇の整備を実施してきた。

①「盆踊り再開事業」では、夢前町山之内地区で小学校の廃校以来、7年間途絶えていた「盆踊り」を、山之内地区連合自治会と共に再開できたことが地域活性化につながっている。「盆踊り再開事業」は、2018年と2019年の2か年続いた。2019年には、かつて小学生として盆踊りを体験していた5人の若者が帰省して参加した。「来年は自分たちも手伝います」との感想を聞いたが、コロナ禍により2020年、2021年の盆踊りは中止された。

②「古民家改修・活用事業」として、築70数年の古民家を回収・活用する事業を学生主体で立

ち上げた。2018年から2020年にかけてほぼ毎月2日間の日程で、地元大工親方2名と左官親方1名に現場での指導を受けながら実習作業を進め、2020年2月に改修工事が完成した。床板を外し、大引き、根太の材木を取り換え、フローリングに仕上げる。ふすまの張り替え、壁の塗り替え、さらに雨漏りの修繕、風呂場のタイルを貼り換えなど本格的な改修工事となり、その計画から施工までを学生グループが担った。

③カモミール収穫ツアーには、「よいとこ健診」に携わる教員と学生が香寺ハーブ・ガーデンのカモミール畑で収穫を行い、「農家レストラン且緩々」で山之内連合自治会と交流会を開催した。そして、夢前スマートICでの種まきでは、香寺ハーブ・ガーデンのスタッフと夢前高校の生徒会とボランティアサークルから生徒20数名も参加し、そこから高校生と大学生の交流が生まれている。そして、2021年9月26日「第3回オンラインよいとこ健診」には夢前高校から生徒10名、指導教諭1名の「よいとこ面談（フィードバック）」への参加につながった。

（2）「加点式健診事業（よいとこ健診）」

健康診断は、健康上の問題点を発見するものであるが、「よいとこ健診」は、まったく逆の発想に立っている。「よいところをほめる」ことで、フレイル予防、健康づくりのモチベーションアップにつながる「行動変容」をうながすところに新規性がある。同時に、「コミュニティ活動」への積極的な参加と地域活性化に結びつけることが目的である。

「よいとこ健診票」は自己記入式の間診票として、医学的検証の裏付けがある設問を組み合わせで設計されている。その回答を独自の計算方法によって、日常生活習慣の「よいところ」を「健診結果表」に「◎」表記として出力する。◎の付いた「健康にいい習慣」の項目をもとに、大学生による“よいとこ面談（フィードバック）”がおこなわれる。そこで健康にプラスの効果をもたらす部分を「ほめる」ためのインタビューが展開される。受診者には「ほめられる」ことを通じて、健康づくりへのモチベーションを引き上げ、さらに「地域のイベントに参加しよう、運動しよう」という行動変容につながり、地域社会の活性化に結び付けることがねらいである。なお、この「よいとこ面談」については、研修を受けた学生が面談を担っているところに重要な意味がある。

これら一連の取り組みを通じて、健康診断（特定健診）の受診率を高めることと、フレイル予防の向上を目指している。そして、中長期的には、夢前町での一人当たり医療費・介護費の抑制につながるなど、社会的課題解決への効果が期待される。

また、2020年度には、コロナ禍のなかでも、ITを活用した「オンライン健診」を開発し、2020年9月と2021年3月には夢前町前之庄公民館で、そして、2021年9月に姫路市北部市民センターにて、Zoomを使った「オンラインよいとこ健診」を延べ3回実施した。加えて、「オンラインよいとこ健診」のフィードバックには、神戸大学医学部の学生だけではなく、経済学部、法学部、文学部、工学部の学生、さらに甲南女子大学、岡山大学、鳥取大学など、神戸大学以外からも多

くの学生がそれぞれの自宅から参加している。これにより全国のどこでも「よいとこ健診（加点式健診）」が可能であることも実証された。

【よいとこ健診の検査項目】

1. 「よいとこ健診票」の自己記入
2. In-Body（体組成テスト）
3. Timed Up&Go（歩行テスト）
4. 口腔機能テスト（水飲みテスト&パタカテスト）
5. 「よいとこ面談」よいところの振り返り（フィードバック）

オプションメニュー】

- a) BDHQ（食事栄養テスト）※BDHQの結果は、後日返却
- b) ファイブ・コグ（認知機能テスト）
コロナ禍では 20 分間の
「あたまの健康セミナー」を実施

（3）旧山之内小学校での「健康フェスタ」：2019年9月

「加点式健診（よいとこ健診）」は、山之内地区で2018年から3回は「長寿会のふれあい喫茶」と同時に開催し、2019年9月16日「健康フェスタ」を含めて4回実施している。

「健康フェスタ」は、旧山之内小学校と香寺ハーブ・ガーデンの経営するレストラン「且緩々」を舞台に開催した。この時、学生44名、教員10名が企画・運営に参画し、(株)香寺ハーブ・ガーデンと「且緩々」からもスタッフ全員が会場設営と当日運営に携わっている。「農家レストラン且緩々」での「料理バイキング方式の食事の栄養チェック」を看板に参加者を募ったところ、77名（山之内地区から20名、前之庄地区から9名、他姫路市内：47名）の参加者があり、その内40名が「よいとこ健診」も受診している。

また、「健康フェスタ」では11月16日の「国民健康保険の特定健診」の事前予約を受け付けた。「特定健診の予約申込」は、9月27日現在、山之内地区から18名、前之庄地区から16名（合計34名）となったが、「協会けんぽ」からの募集チラシの配布もあり、11月16日までに目標人数の50名を超える予約があり、特定健診の受診者増加につながっている。

「健康フェスタ」での新たな取り組み内容

- (1) 「よいとこ健診」（加点式健診事業）のポスター展示
- (2) 「よいとこ健診」のICT化と実用化実験
- (3) 「料理バイキング方式による食事の栄養チェック」
- (4) 健康落語、健康体操、頭の体操ゲーム
- (5) 「手作りマルシェ」の参加
- (6) 香寺ハーブ・ガーデン「ハーブティーと地元産のお米を使ったカレーライス」

（4）「国保特定健診」：2019年11月

山之内地区の「特定健診対象者」（40歳から74歳）は約200名である。国民健康保険課として

は、それらのなかでも「40歳から65歳未満」の人たち(約150名)に特定健診の受診を頻繁に呼びかけてきたが、9割はこれまで健康診断を受診していなかった。

今回の「健康フェスタ」に参加した山之内地区の対象者から「特定健診」事前申込は、18名。2019年11月16日当日の受診者は59名であった。

参考資料：特定健診受診率（国保特定健診）

	H28	H29	H30
前之庄	26.3%	28.0%	32.6%
姫路市	39.7%	39.7%	40.9%

Ⅲ. 考察と今後の課題

(1) 「加点式健診事業」を通じた学生への教育効果

「加点式健診事業（よいとこ健診）」は、高齢者の健康促進が目的であると同時に、その担い手である学生の成長の場としても期待される。よいとこ健診の学生への教育効果を例示すると、「よいとこ健診の企画・運営を通じたリーダーシップ能力の向上」、「打ち合わせやフィードバックを通じたコミュニケーション能力の向上」等があげられる。

ここでは、「よいとこ健診」に参加した学生を対象に行ったアンケートを用いて、複数回よいとこ健診に参加することによる学生への教育効果について分析した。1回以上、事前・事後の両方に回答した学生は85名であり、そのうち複数回参加した学生は24名となっている。

さらに、第3回オンラインよいとこ健診には、地元の夢前高校の高校生や、鳥取大学、岡山大学、自治医科大学の大学生も参加しており、参加学生のバリエーションも広がりを見せている。今後、コロナ禍収束後にはより多くの学生が現地参加できることを期待している。

(2) 「夢前花街道事業」

コロナ禍により事業実施が妨げられ、当初の計画通りには進んでいない。夢前町山之内地区での(1)盆踊り再開事業は、2018年、2019年の2回の成功の後、2020年の盆踊り大会は中止となり、2021年度も実施は困難であった。

(3)「加点式健診事業」も、2020年3月からコロナ禍による影響は非常に深刻な状況にあり、大学生が現地に赴く形では実施できない状況にある。しかし、ITCを活用することで「オンラインよいとこ健診」という新たな形で展開し、2022年3月20日にも前之庄校区で計画準備を進めている。

なお、2021年5月25日には、神戸大学医学研究科・地域医療教育部門に「よいとこ健診」のホームページを開設した。今後も学内外での研究者と学生の参加を呼びかけ「加点式健診事業」を普及する。「よいとこ健診のホームページ」では、これまでの「よいとこ健診」の内容と、本研究に関連する共同研究者の研究業績の紹介に加えて、「オンラインよいとこ健診」をネット上で体験できるプログラムも公開している。

そして、研究実践の成果については、参加している研究者がそれぞれの分野で学術論文を発表し、学内での研究会、学会発表を通じて「よいとこ健診」の普及に努めている。